

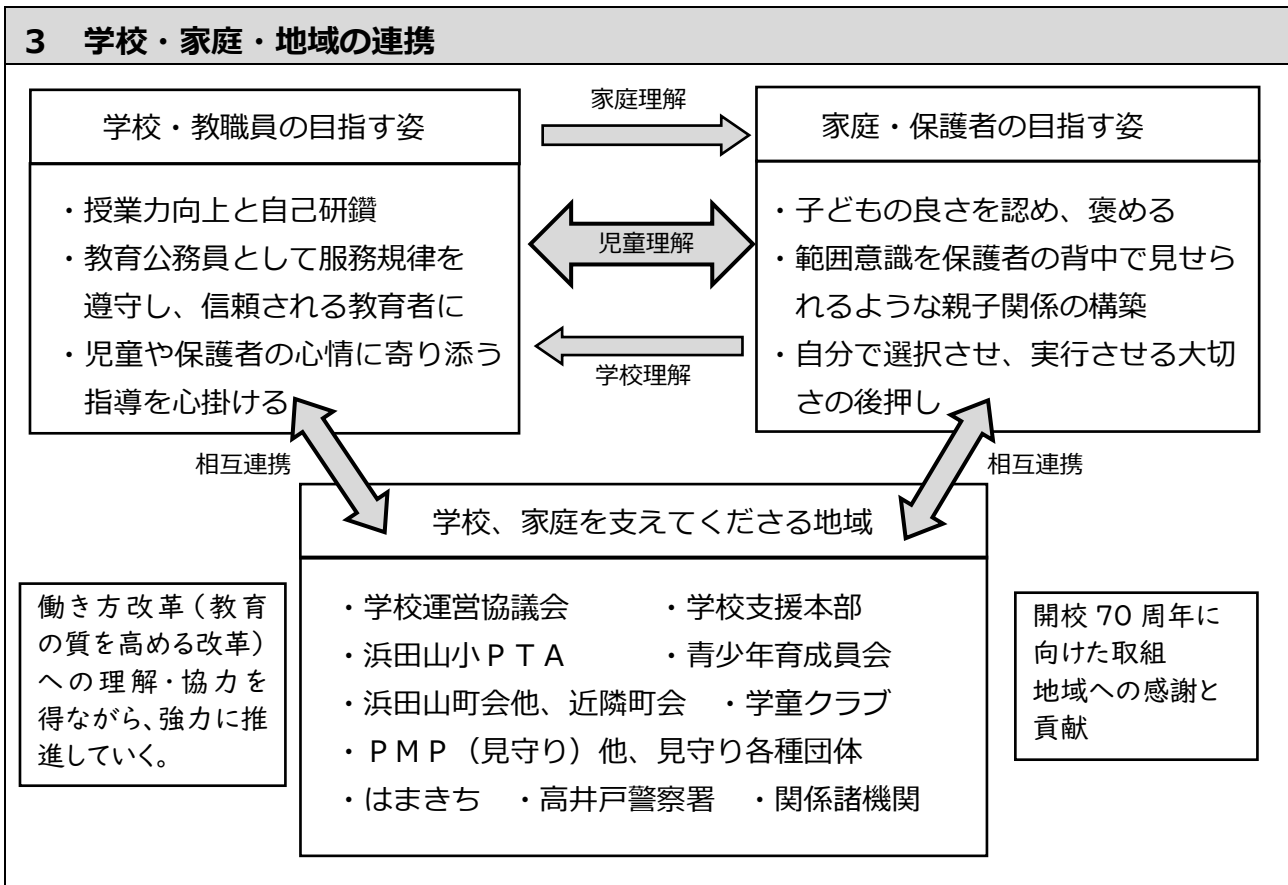
【杉並区教育ビジョン 2022】 私たちが大切にしたい教育

『みんなのしあわせを創る杉並の教育』
 とともに尊重し、大切にしたいことは以下の3点

- ・学び合い、信頼をつくり、共に生きる
- ・違いを認め合い、自分らしく生きる
- ・誰もが社会の担い手として生きる

1 学校教育目標		
持続可能な社会の創り手として、豊かな人生を「自立・創造・協働」しながら切り拓く力を備えた、礼儀正しく人間性豊かな児童の育成を目指す。		
○考えて やりぬく子 ◎やさしく 助け合う子 ○明るく つよい子		

2 学校教育目標に照らし合わせた、めざす学校像、児童像		
考えて やりぬく子	◎やさしく 助け合う子	明るく つよい子
Society5.0 未来に向かう学校	自他を尊重し 笑顔のあふれる学校	夢と創造性を伸ばす学校
主体的・対話的に学び、 自立 する児童	心豊かで、 友達と 協働 する児童	前向きで粘り強く、 創造 する児童



4 本校の現状および教育目標達成のための基本方針

(1) 本校の現状

with コロナ、after コロナという新たな段階の中、新学期を迎えた。感染症対策に関しては緩和の方向であり、感染症ガイドラインはなくなったが、令和3年度に作成した「浜小スタンダード」を修正しながらも引き続き遵守していくことで安全・安心な学校づくりを継続していく。

令和5年度は842名、27学級でスタートした。区内小学校では1, 2を争うくらい児童数が多く、平成28年度以降、100名以上増加している。人気の土地柄ということもあり、今後増加傾向にある。そのため、児童数増加に対する教室配置等施設の適正規模と、それに伴う教職員の適切な配置、教育活動の円滑な実施、校内外における児童の安全・安心の担保等が優先事項である。老朽化の進む施設の改善・改修に関しても区教委とともに強力に推進していく。

保護者や地域の教育に対する意識や期待は高く、また教育活動には大変協力的である。学校運営協議会は今年度で発足6年目を迎え、地域の核となるCSとしての役割を担うために学校支援本部や本校PTAとも連携を深め、信頼関係をさらに強固にしていく。今年度は開校70周年を迎える年にあたることもあり、学校・保護者・地域が大きな目標を共有することで、集団的な凝集性を高めていくとともに、「協力したくなる学校、応援したくなる学校」を目指す。

児童の授業に取り組む姿勢は意欲的であり、知識・技能面、特に「得点」としての学力は区内でもトップクラスである。一方でここ数年の杉並区課題調査や全国学力・学習状況調査等の各種意識調査では、「内発的な学習意欲」「協働的な学び」「自己肯定感」等の非認知能力に関しては、都や区の平均を数ポイント下回っている傾向が続いている。協働的な学び、仲間とのかかわりについては、学校行事の削減や規模縮小の流れもあり、質・量ともに薄らいでいるのが現状である。

それらの実態を踏まえ、「主体的、協働的な学び」「他者を認め、自身の自己肯定感を高めるための指導や手だて」を本校児童の資質・能力を育成するための重要課題と捉え、学びの構造転換を教科指導に限らず、学校教育全体で行っていく。そのことから、各教科指導の他、「人権教育」「特別活動」「道徳教育」を重視し、「自他ともに認め合う」「自分らしく生きる」「自らが社会の創り手となる」ための指導を持続的に行い、特に非認知能力（自尊心、自己肯定感、思いやり、コミュニケーション能力等の人とかかわる力）の育成を図る。

(2) 教育目標達成のための基本方針

◎やさしく 助け合う子 (心豊かで、友達と協働する児童)

- ・「協働的な学び」「対話的な学び」を日常化し、同じ目的、対等の立場で学習ができる環境を整えるためのOJT, 校内外研修の充実 (全授業・校内研修)

- ・異年齢集団を生かした児童会活動やクラブ活動、縦割り班活動等の協働的な活動の充実
(生活指導部、特別活動部)
- ・挨拶を基本とした他者との関わり方等を地域とともに育み、自他のよさや違いに気付き、認め合える児童の育成
(生活指導部、保護者・地域)

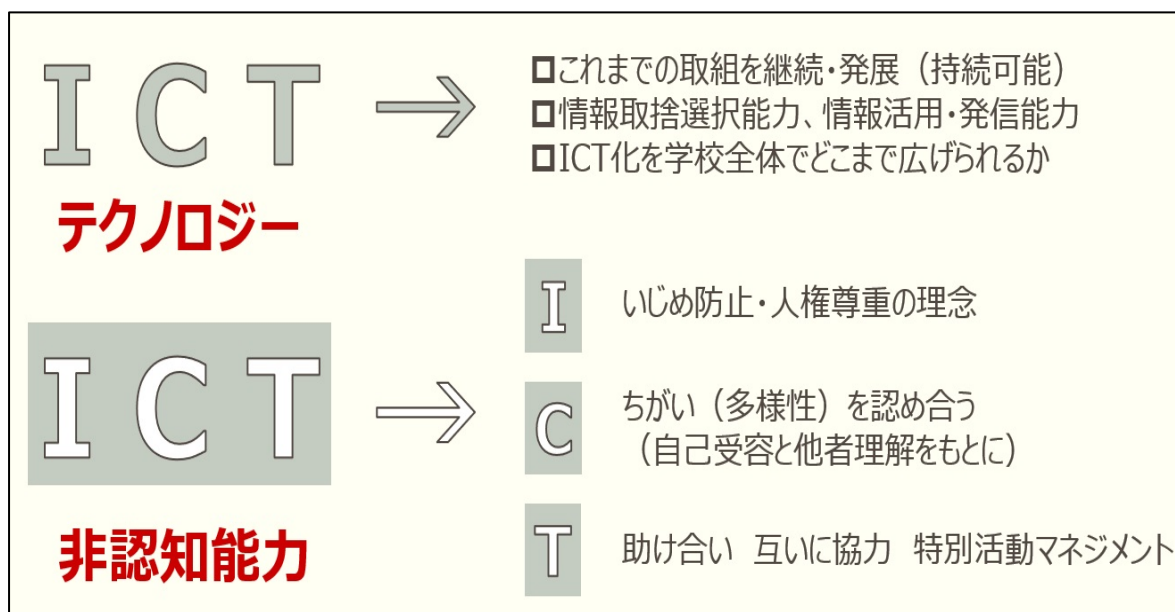
考えて やりぬく子 (主体的・対話的に学び、自立する児童)

- ・TB や AI ロボット等を活用し、自立的で未来を見据えた学習の推進
(算数・理科・音楽・総合)
- ・今後求められている資質・能力の育成を目指すための学習指導力の向上 (全教科)
- ・子供自身が課題設定する場を多くし、自ら考え、行動、解決する力の育成 (全教科)

明るく つよい子 (前向きで粘り強く、創造する児童)

- ・児童の想像力や創造力を最大限引き出すのに必要な教師の仕掛けや手だてに関する OJT の推進 (校内研修)
- ・なりたい自分に向けためあてをもち、達成させることによる自己肯定感の高まりや自信につながる指導の充実 (道徳、学級活動、総合)
- ・最後まで粘り強く取り組ませ、成果だけではなくその過程にも目を向ける (全教科)

(3) 日常の取組の指針となるコンセプト



5 さらなる高みを目指して

「地域の中の学校」の推進

- CSとして学校が中核となり、学校だより、ホームページ、CSだよりまたは一斉メールを通じて、教育活動に関する積極的な発信と受信を行う。
- 学校支援本部や青少年育成委員会、学童クラブ等の地域諸団体と連携を図り、学校内外で児童を育てる環境を整備する。
- 今年度の秋に行われる開校70周年記念行事に向けて学校と地域（町会）が気持ちを一つにして、これまでの感謝の気持ちと今後の貢献の決意を表す行事とするとともに、「応援したくなる学校」「協力したくなる学校」となるよう、信頼関係をより深めていく。

「教師としてのプロ意識」の向上

- 各職層における役割の共通認識と、その確実な校務遂行を図る。
- 服務規律の遵守、服務事故防止への取組を組織全体で強く推進する。
- 報告、連絡、相談、記録の日常化を図る。
- 校内研、OJT、学年研修会等を活用し、学び合い、高め合う教師集団の形成。若手教員やベテラン教員個々の課題を洗い出し、短時間でも持続的で効果的なOJTを推進する。
- 全教職員が全児童の心情や行動に対して「寄り添う気持ち」と「毅然と指導できる態度」の両方をもち合わせ、適切な指導を心掛ける。
- 危機管理は「未然防止」を第一に、最悪の事態を常に想定しながら全教職員で取り組む。

「児童と向き合う時間」「自分に向き合う時間」の確保

- 時程、行事の見直しを短期間サイクル（毎月）で見直し、日程や内容に余力のある学校運営を進める。「情報共有」を校内の絶対的ルールとし、教育活動全般についての成果や改善点をすぐに教育課程に生かすマネジメント機能を強化する。
- 「教育の質を落とさない」ことを前提とした校務改善、働き方改革を断行する。その上で余力のある教育課程の編成、実践と、職員一人一人のライフワークバランスを反映した職場風土の醸成の両立を図る。
- ICT機器を授業以外の校務全般にも活用し、効率化、日常化を図ることで、児童と向き合う時間や自分と向き合う時間、教材研究の時間の確保を目指す。